

『コロナ治療の新展開』

先日の年末家族例会にご出席の皆様、どうもありがとうございました。そして角野会員はじめ親睦活動チームの皆様には大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。



さて新たなオミクロン変異株の脅威もありますが、国内の新型コロナウイルスの感染者は減少状態を維持しています。

その原因については明らかではありませんが、ワクチン接種の関与が大きいことに疑う余地はないと思います。現在の mRNA ワクチンは高い有効性が認められていますが、新たな経鼻噴霧型ワクチンもその効果が期待されています。

治療薬にも大きな進展があります。これまでの中等症～重症患者に対する薬剤に加え、最近では比較的軽症向けの中和抗体薬が高い有効性を示しています。第2の中和抗体薬も承認され期待が持てますが、これらはいずれも点滴薬のため副作用を含め約 1 日間の観察が必要であり、一般のクリニック等ではまだ簡単には投与できない現状です。

そこで期待されるのが内服治療薬です。メルク社の「モルヌピラビル」が米国で、ファイザー社の「パクスロピド」もイギリスで承認されました。いずれも一定の重症化予防効果が認められています。ただし薬価は 5 日間の服用で約8万円程度とのこと。その他、国産も含め期待できる薬剤が数種類あります。

インフルエンザにおけるタミフルのような、手軽に使用できかつ有効な経口薬はワクチンと並んでコロナ対策におけるゲームチェンジャーとなる可能性があります。仮に感染しても重症化が防げれば、with コロナの考えのもとに以前に近い生活に戻ることも可能になると思います。今後は、感染予防から重症化予防に重点を移す時期が近づいているように思います。